

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Analyzing the relationship between feelings about pregnancy and mother-infant bonding with the onset of maternal psychological distress after childbirth: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠に対する気持ち及び産後の対児愛着と母親の心理的ストレスの発症との関連:子どもの健康と環境に関する全国調査

ユニットセンター(UC)等名: 兵庫ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Affective Disorders

年: 2023 DOI: 10.1016/j.jad.2023.02.130

筆頭著者名: 徳田 成美

所属 UC 名: 兵庫ユニットセンター

目的:

妊娠初期から母親のメンタルヘルスに目を向けることは非常に重要である。本研究では、妊娠初期に心理的ストレスを感じていなかった母親を対象として、妊娠に対する気持ち、流産歴及び不妊治療歴が産後 12 か月での母親の心理的ストレスの発症に与える影響を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に登録された 97,415 人の母親のうち、妊娠中に心理的ストレスを感じておらず、産後 12 か月での心理的ストレスが評価できた 46,053 人を対象とした。心理的ストレスは、K6(うつと不安の程度の評価指標)を用いて妊娠初期及び中・後期と産後 12 か月に、妊娠に対する気持ちと流産歴と不妊治療歴は妊娠初期に評価した。対児愛着は、MIBS-J(日本語版赤ちゃんへの気持ち質問票)を用いて、産後 1 か月と 6 か月は 5 項目、産後 12 か月は 10 項目を評価した。

結果:

産後 12 か月での心理的ストレスの発症には、妊娠に対する気持ちが否定的であったこと、現在の妊娠前の不妊治療歴があること、産後の対児愛着が弱いことが関連していました。現在の妊娠前の流産歴は、心理的ストレスの発症との関連はみられなかった。妊娠初期に心理的ストレスのなかった母親の産後 12 か月での心理的ストレスの発症には、子どもに対する愛着から受ける影響が最も大きく、妊娠に対する否定的な気持ちは産後の対児愛着を介して間接的に心理的ストレスの発症に影響を与えていた。

考察(研究の限界を含める):

産後の心理的ストレスの発症に最も大きな影響を与えている要因は対児愛着の弱さであり、妊娠に対する否定的な気持ちは対児愛着の弱さを介して間接的に影響を与えていることが明らかとなった。先の研究では、対児愛着の弱さは妊娠時の心理的ストレスが産後 12 か月での持続に影響していたことも考慮すると、周産期を通じて母親の対児愛着を強化するようにサポートすることが重要だと考えられた。本研究の限界として、対児愛着の測定に用いた MIBS-J が産後 1 か月・6 か月では 5 項目しか用いていないこと、産後 12 か月では心理的ストレスと対児愛着が同時期に評価されていることがあげられる。

結論:

産後の対児愛着の弱さは、産後の 12 か月での母親の心理的ストレスの発症と関連していた。妊娠に対する否定的な気持ちは対児愛着の弱さを介して心理的ストレスの発症に影響を与えることが明らかとなり、周産期を通じて母子の絆をサポートすることが重要だと考えられた。